

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	保健体育	体育	特進理系	2	体育科教員
教科書	現代高等保健体育体育編				
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能 ・授業内で学んだ技能を実技テストにて評価				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・技能の行い方や組合せ方について、自己や仲間と良い点や修正点を指摘し合いながら互いに新たな課題を発見しているとともに技能を表現しようとしている。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・技術練習やゲームの経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、他者と協調性を大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。課題を提示し評価する。				
考查	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点＝100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	観点① 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける ※1学期は新体力テストが加わる。				
	観点② 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける				
	観点③ 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける				
授業のねらい・進め方・注意点	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。				
図書資料の活用	必要に応じて授業で提示する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	現代高等保健体育	○オリエンテーション (新学期・実技指導・内容説明) ○新体力テスト
	5		【グラウンド種目】ラグビーフットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	6		【体育館種目】バレーボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
2	7	現代高等保健体育	【ダンス】 ・内容説明、基礎動作・振り付け指導 ※実技テストも行う。
	9		【柔道】 ・実技指導、内容説明、受身・寝技 ※実技テストも行う。
	10		【グラウンド種目】サッカー ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
3	11	現代高等保健体育	【体育館種目】バスケットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	12		【ダンス】 ・創作ダンス、振り付け指導 ※実技テストも行う。
	1		【柔道】 ・実技指導、立技 ※実技テストも行う。
3	2		
	3		

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	論理国語	特進理系	2	具志堅
教科書	『論理国語』(数研出版)				
副教材	『論理国語 準拠ワーク』(数研出版),『2026共通テスト対策問題集Vol.4国語現代文』(河合出版)『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500 三訂版』(いいずな書店),『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いいずな書店)				
評価基準	観点① 知識・技能 語彙力・文章構成の理解(文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方の理解) 情報の扱い方を理解する。(情報の重要度による整理、推論)				
	観点② 思考力・判断力・表現力 文章を的確に理解し、自分の考えを深め、他者に伝えられる表現力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業を聞く。与えられた課題、自分で発見した課題に取り組む。他者と協働して問題解決を図ろうとする。成果物を提出する。				
考査・ 評価 方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	・自力で文章を正しく読解する力を養っていくことを主眼とする。 ・問題は予習として解いてくる。ノートにまとめる。 ・漢字は考査と同じ範囲を中テストとして実施する。継続的に学習する。				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		大学過去問 共通テスト対策問題集	読解問題の演習
2		大学過去問 共通テスト対策問題集	読解問題の演習
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学C	特進理系	3	和久井
教科書	数研出版 数学C				
副教材	4step 数学IIIC				
評価基準	観点① 知識・技能 学んだ内容について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に表現・処理したりする技能を身に付け、基本的な問題を解くことができるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 観点①で身につけた力をもとに、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。そして、入試問題などの実践的な問題に対応できるようにする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返り考察を深め、創造性の基礎を養う。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・計4回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書の例・例題・練習、4STEPのAレベルの問題 50点				
	観点② 教科書の応用例題・発展・補充問題、4STEPのB・練習問題レベルの問題 50点				
	観点③ 授業への取り組み、課題(自宅学習)への取り組み 20点				
授業のねらい・進め方・注意点	2年次に学習したベクトル、複素数平面に続き、残った二次曲線を片付けます。 とにかく基礎基本を徹底し、入試問題に対応できるための土台を作ります。 二次曲線終了後は、数学IAIIBC入試問題基礎演習、共通テスト対策を進めます。				
図書資料の活用	以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 数学ガール・結城浩 フェルマーの鸚鵡はしゃべらない・ドウニ ゲジ				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		- 教科書(数学C数研出版) - プリント	第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 - 放物線、楕円、双曲線 2次曲線と直線 第2節 媒介変数表示と極座標 - 媒介変数表示 - 極座標と極方程式 数学IAIIB基本入試問題演習
2		プリント	- 数学IAIIB基本入試問題演習 - 共通テスト対策
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学III	特進理系	5	平田
教科書	数研出版 数学C				
副教材	4step 数学IIIC				
評価基準	観点① 知識・技能 学んだ内容について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に表現・処理したりする技能を身に付け、基本的な問題を解くことができるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 観点①で身につけた力をもとに、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。そして、入試問題などの実践的な問題に対応できるようにする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返り考察を深め、創造性の基礎を養う。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・計4回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書の例・例題・練習、4STEPのAレベルの問題 50点				
	観点② 教科書の応用例題・発展・補充問題、4STEPのB・練習問題レベルの問題 50点				
	観点③ 授業への取り組み、課題(自宅学習)への取り組み 20点				
授業のねらい・進め方・注意点	数学IIや数学Bの内容を前提としてより高度な内容を学ぶ。中心となるのは昨年度に学んだ微分積分であり、数学IIIでは様々な関数について計算できることが理解できるようになることが目標です。 2学期は数学IIIの入試問題演習を実施します。				
図書資料の活用	以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 容疑者Xの献身・東野圭吾 まず牛を球とします・柞刈湯葉				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書、副教材 スクールタクト	到達度テストIII春スタンダード
	5		第5章 微分法 第6章 微分法の応用
	6		1学期中間考查
	7		第7章 積分法 第8章 積分法の応用 1学期期末考查
2	9	スクールタクト	数学III入試問題演習
	10		
	11		2学期中間考查
	12		2学期期末考查
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	物理	特進理系	4	齋藤広
教科書	物理基礎（物基703）実教出版 物理（物理702）実教出版				
副教材	セミナー物理基礎＋物理（新課程版） 第一学習社				
評価基準	観点① 知識・技能 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解できる。 公式を使って、基本的な問題を解き、物理量を求めることができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 実験等によって得られた情報を整理・分析し、法則性や関係する物理量を求めることができる。また、得られた知識を使って応用的な課題を解決できる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業や課題に真剣に取り組み、知識や思考力等の成長のために努力できる。 また、学習した内容と日常生活との関わりなどについて調べたり考えることができる。				
考査・評価	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施				
方法	上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。				
	1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	物理を選択した人は、基本的には大学受験科目として物理を選択するであろうということを前提として、大学進学に向けて必要な最低限度の知識と技法を身につけることを目標として授業を行います。適宜、状況に応じて進度を変更する可能性があります。				
図書資料の活用	学期ごとのレポートや各自で入試の過去問に取り組む際に、図書室を活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	物理基礎4章1節 電流	静電気と電流
		物理3章1節 電荷と電場	オームの法則、電気とエネルギー 電場中の導体 コンデンサー
	5	物理3章2節 電流	電気回路と直流回路
		物理1章3節	等速円運動
	6	円運動と単振動	慣性力と単振動
		物理1章4節万有引力	ケプラーの法則と万有引力
	7	物理1章5節 気体分子の運動	気体分子の運動と状態方程式 気体の内部エネルギーと状態変化
2	9	物理3章3節 磁場と電流	磁場、電流の作る磁場 電流が磁場から受ける力 ローレンツ力
		物理3章4節 電磁誘導と電磁波	電磁誘導の法則 自己誘導と相互誘導, 電気振動と共振
		物理基礎4章2節 電気の利用	交流 電磁波
	10	物理4章1節 電子と光	電子 光の粒子性と電子の波動性
		物理4章2節 原子と原子核	原子の構造 原子核と原子核反応 素粒子
	11	セミナー物理基礎＋物理	入試過去問題の研究
	12	入試過去問題	

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	生物発展	特進理系	4	笛木
教科書	「生物」第一学習社				
副教材	「スクエア最新図説生物」第一学習社				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書および図説の内容の十分な理解を目指す。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 内容の理解を目指す過程で、教科書以外の資料を多く取り入れる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 学習内容に関するレポートを作成する。 小テストを実施する。				
考査・ 評価 方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業の ねらい・ 進め方・ 学習ア ドバイ ス	学習者...学習項目の理解にどれほど自分自身の思考を巡らせたか？に注目する。 授業者...学習者の思考がより深いものになるように注力する。 進度・状況に応じて授業で取り扱う順番を変更する可能性がある。				
図書資料の活用	レポートの作成や入試過去問に取り組む際に活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 図説	①「第5章遺伝情報とその発現」 「第6章遺伝子の発現調節と発生」 から学習する。後半は「第7章遺伝子を扱う技術とその応用」「第8章動物の反応と行動」まで学習する。 ②授業者は、教科書や図説を用いて学習項目を確認したのち、問題演習を行う。
	5		
	6		
	7		
2	9	教科書 図説	①について学習する。10月下旬～11月は「第9章植物の成長と環境応答」「第10章生態系のしくみと人間の関り」について学習する。 ②授業者は、教科書や図説を用いて学習項目を確認したのち、問題演習を行う。
	10		
	11		
	12		
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	化学発展	特進理系	4	石田
教科書	実教出版 化学academia				
副教材	セミナー化学基礎＋化学				
評価基準	観点① 知識・技能 語句 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解する。 技能 実験の際に、適切に器具を使用し、実験のねらいを果たす。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 問い 単元ごとの代表的な問いについて学ぶことで、科学的な見地を手に入れる。 意見 状況に応じた理論の活用を行い、自分自身の意見を形づくる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 意欲 自分で必要だと思ったことを実施し、語句の修得のための努力を重ねる。 関心 修得した理論の歴史や社会的意義を、調べたり考察したりする。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施				
	上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	・授業のすべてが授業者による内容の解説にならないように配慮する。 ・知識の詰め込みではなく、日常生活でも論理的思考が出来るように促す。 ・毎授業の終わりに、学習の自己調整についての考えを整理する時間をつくる。 ※授業中の教員の話は、重要なことが多いのでしっかり聞くこと。				
図書資料の活用	理科学的な思考力を強化したい人は、以下の文献を参考にしてください。 「科学的思考」のレッスン 学校で教えてくれないサイエンス 戸田山和久				

授業の計画

※授業の進度により変更することがあります。

学期	月	教材	内容
1	4	プリント	化学平衡 緩衝液の性質とpHの計算
	5	プリント	飽和炭化水素 不飽和炭化水素
	6	プリント	有機化合物の構造決定 アルコール、エーテル、アルデヒド
	7	プリント	カルボン酸、油脂、芳香族化合物 高分子化合物、無機化学
2	9~12	入試の過去問	全単元の復習と、入試問題演習
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	外国語 (英語)	論理・表現III	特進文系	4	猪瀬
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression III				
副教材	PLUS 英語頻出問題 入試必携英作文 Write to the Point、共通テスト10分リスニングプレノート				
評価基準	観点① 知識・技能 文法知識を習得し、客観式問題に解答することができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 習得した文法知識を応用して初見の問題に対応できる。また、正しい英文を作ることができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業内で実施する小テストをもとに点数をつける。自宅学習でしっかりと準備すること。				
考査・ 評価 方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業の ねらい・ 進め方・ 学習ア ドバイ ス	・大学受験に向けた、英文法分野の実践的演習。解答の根拠となるポイントを自分で考えながら問題を解く力を養うことを目的とする。 ・培った文法知識を運用して正しい英文を書くことを目的とする。 ・原則予習は課さず、授業内で問題演習し、解答解説を行う。				
図書資 料の活 用	図書室にある参考書を利用してもよい。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 1 ~ 2 1主語の決定(1) ~ 2主語の決定(2) 第1回、第2回、第3回、第10回
	5	PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 3 ~ 4 3目的の表現 ~ 6時制(2) 第11回、第12回、第4回、第5回
	6	PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 5 ~ 6 7動詞の語法 ~ 8関係代名詞・関係副詞 第6回、第13回、第14回、第15回
2	9	PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 7 ~ 8 9時間の表現 ~ 10数字の表現 第7回、第8回、第9回、第16回
	10	PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 9 ~ 10 11仮定・条件の基本 ~ 13比較の基本 第17回、第18回、第19回、第20回
	11	PLUS Write to the Point リスニングプレノート	Sect. 11 ~ 12 14比較の応用 ~ 17.重要表現(2) 第21回、第22回、第23回、第24回
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	公民科	政治経済	特進理系	2	芳野
教科書	『詳述 政治・経済』 実教出版				
副教材	○『詳述 政治・経済 演習ノート』 実教出版 ○担当者作成のテキスト・問題集				
評価基準	観点① 知識・技能 ○現実社会の諸事象を通して、国内/国際経済に関する概念や理論を理解している ○現代の諸課題解決に必要な情報を、諸資料から効果的に収集し、正確に読み取っている				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ○経済活動の活性化、またそれに伴う福祉の向上について多面的・多角的に考察し、表現している ○相互依存関係が深まる国際経済の特質と、その中で果たす日本の役割について多面的・多角的に考察し、表現している				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ○講義受講者どうしの対話によって、自分の考えなどを広げたり深めている ○情報手段の活用により、自分自身で課題の追求や解決の見通しをもっている				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① ○経済の基本概念を正確に把握・理解し、それを記述できる ○課題解決の糸口となる資料を正確に収集・分析できる				
	観点② ○経済の特質について理解したうえで、諸課題解決の方策を考察できる ○考察内容を他者と議論し、その妥当性や実現可能性を判断できる				
	観点③ ○自身の考察を他者に伝え、他者との議論を通じてより深い考察ができる ○諸課題解決のプロセスを通じて自ら新たな課題を発見し、その課題解決に取り組むことができる				
授業のねらい・進め方・注意点	授業のねらい：現代国内/国際経済のしくみを理解し、主体的に諸課題の解決に取り組むための基礎的な能力を身に付ける 授業の進め方：担当者作成のテキストを使用した講義を基本とし、学習した内容を活用できるようなワークを実施予定です。初回授業・授業中の指示に従ってください。 注意点：授業という与えられたことをこなすだけでなく、よりよい社会の形成のために自分はどう行動すべきか考えてください。				
図書資料の活用	○『朝日中高生新聞 まとめてわかる！ニュース1週間』をはじめ、複数の新聞社による記事の参照 ○授業内容に合わせ、適宜書籍や映画を紹介します				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	○教科書	第2編 現代日本の経済 第1章 経済社会の変容 1 経済活動の意義 第2章 現代経済のしくみ 1 市場機構 2 現代の企業 3 国民所得と経済成長 4 金融のしくみ 5 財政のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上 1 経済の停滞と再生
	5	○副教材	
	6		
	7		
2	9	○教科書	第3章 現代経済と福祉の向上 5 労使関係と労働条件の改善 6 社会保障の役割 第2章 現代の国際経済 1 商品・資本の流れと国際収支 2 国際経済体制の変化 3 グローバル化と世界金融 4 地域経済統合と新興国の台頭 5 地球環境とエネルギー
	10	○副教材	
	11		
	12		
※大学入学共通テスト・私立大学の「公共」・「政治経済」受験予定者は、申し出てください。			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	英語演習	特進理系	2	石井
教科書	Clues to Reading 英文和訳の徹底演習 (数研出版)				
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能 各Clueの学習事項を習得し、実践問題ができています。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 各Clueの学習事項を、別の英文に対しても応用できている。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 毎回の英文和訳作業に、能動的に取り組んでいる。 schoolTakt上に配信する予習教材にきちんと取り組んでいる。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	- 予習必須。予習前提で授業を進める。 - 例題は先に授業で解説→演習問題は予習という流れで進める。				
図書資料の活用					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	Clues to Reading 英文和訳の徹底演習	例題の解説 Clue 1～15
	5		(以降、実践問題)
	6		1 基本構造を見ぬく(1) 2 基本構造を見ぬく(2) 3 注意すべきthatの用法を見わける 4 注意すべきitの用法を見わける 5 関係代名詞は代名詞(1) 6 関係代名詞は代名詞(2) 7 意味上の主語を見ぬく 8 文末の分詞構文を見ぬく
	7		
2	9	Clues to Reading 英文和訳の徹底演習	9 比較対象を見ぬく(1) 10 比較対象を見ぬく(2) 11 名詞構文を見ぬく 12 倒置を見ぬく(1) 13 倒置を見ぬく(2) 14 省略を見ぬく 15 その他重要事項
	10		
	11		
	12		※テキスト終了後、入試演習
3			

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	外国語	ECIII	特進理系	4	久保田 祐正
教科書	FLEX ENGLISH COMMUNICATION III (増進堂)				
副教材	英語長文読解 プラクシス(Praxis) Level 4 (Z会)				
評価基準	観点① 知識・技能 ＊テキストの英文・設問に対応できるだけの語彙力、英文解釈力が身につく ＊設問の解法を、本文設問を通じてマスターする				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ＊テキストに基づく別形式出題にも対応できる ＊初見英文でも、同じ読み方、解き方で対応できる				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ＊授業内外の課題に、手を抜くことなく取り組んでいる。 (この項目は正解点数ではなく、取組状況のみで評価する)				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	Stage 1では「読解のアプローチ」に関する講義を行ったうえで、サポートノートでPre-Useして予備知識、導入を図ります。それから本文問題に取り組みます。解答解説については、先に冊子を渡しますので、各自で確認、解き直しをすることが基本です。授業では冊子で触れていない知識や考え方を伝えることがメインになります。 Stage 2では先に本文問題に取り組み、解答解説に入る前に、サポートノートをAfter-Useして知識を補強した後に、もう一度本文問題をやり直します。その先はStage 1と同じです。 Stage 3は仕上げになりますので、本文問題から解答解説、最後に知識整理としてサポートノートを使います。 なお、12月までにすべてを授業でこなすのは不可能なので、1・2年次とは異なり、相当量の授業外課題を出すことになります。				
図書資料の活用	特になし				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	Stage 1 - 1	サポートノート知識を得た上でよいので、しっかり本文を読み、問題を解き、正答率を上げることで「大学中上位レベルの入試英文が解ける」成功体験を身につける
		Stage 1 - 2	
		Stage 1 - 3	
	5	Stage 1 - 4	
		Stage 1 - 5	
		Stage 1 - 6	
	6	Stage 2 - 1	各英文を①素で読む ②サポートノート知識を得てやり直す の2段階を踏むことによって、自分が長文を読むうえで何ができて、欠けているを把握し、後者を補強する意識を持って学習する
		Stage 2 - 2	
		Stage 2 - 3	常に本番を意識して取り組む。この段階でスムーズに読めるようにするために、Stage 1と2があるということは、4月当初から常に覚悟しておくこと
	7	Stage 2 - 4	
2	9	Stage 2 - 5	
		Stage 2 - 6	
		Stage 3 - 1	
	10	Stage 3 - 2	
		Stage 3 - 3	
		Stage 3 - 4	
	11	Stage 3 - 5	
3		Stage 3 - 6	
	12	(終了後 大学入試演習等)	
3	1	大学入学共通テスト 私大一般選抜 国公立二次試験	国公立志望者はここでアドバンテージを、私大志望者はここで滑り止めを確保
	2		志望校突破あるのみ よい報告を待っています。

3年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	3年次では、以下を重視して実施。 2年次からの個人探究を引き続き行い、深め論文にし、発表する。 進路探究を通じて自分を理解する。 一学期 志望理由書の作成、個人探究の継続 二学期① 論文にしたものを踏まえスライドにする 二学期② 全員発表する
教材教具	□ iPad (Classroomの連絡が確認できる端末) □ マイナビテキスト「探究の進め方」 □ 昨年度から使用している探究ノート □ その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。
一学期	志望理由書を作成し、進路探究をする。個人探究を継続する 授業の流れ（概要） 1. 志望先学校について深く知る 2. 志望理由書の書き方を学ぶ 3. 志望理由書を書き、添削を受ける 4. 2年3月の発表をさらに発展させるよう個人探究を継続する 5. 論文の書き方を学ぶ 6. 論文を作成する
夏休み	スライドの作成
二学期	前半 スライドを作成し、周囲からアドバイスを受ける 後半 スライドを用いて発表する 授業の流れ（概要） 1. 夏休みの計画したようにスライドを作成する 2. スライドをも用いて発表する 3. 発表について評価を受け、改善する 4. 他学年に代表者が発表する

三学期	
-----	--

注意	
基本	・中間発表での反省を生かし、個人探究のテーマ・内容を深める ・探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。 ・大学進学後に必要となる論文作成やプレゼンを経験する
	・ルーブリックを意識した行動を心がける。 ・調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識した成果物を作成する。

グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？	
個人での探究の機会が増えるが、発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。 ①クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。 ②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って+αのアイデアを出す。 ④グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。 ⑤会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を補う。 ⑥予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行する。 ⑦予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。	
注意事項	評価指標
個々の発言量・機会を均等にする。 人の意見に乗ってばかり...はやめる。 人に指示してやらせてばかり...はやめる。 会話の流れを記録し、遡れるようにする。	協働的に学ぶ意義は「物事を多面的に視る」という点である。様々な側面からの情報や異論などを集め、整理できれば、よいチームだと評価される。